

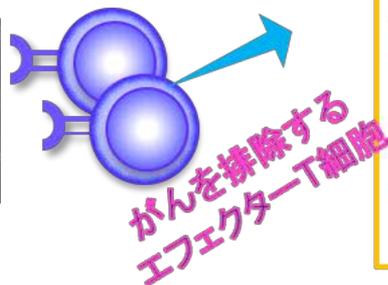
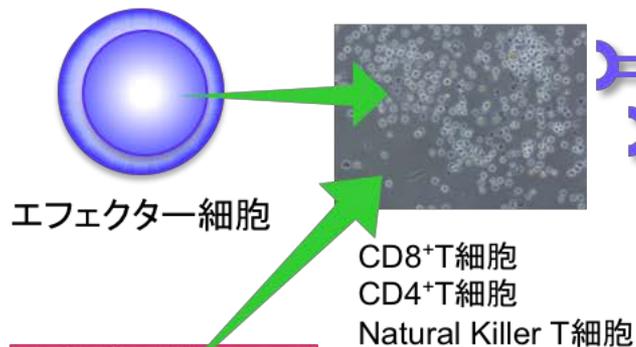
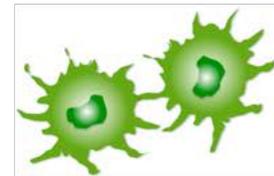
課題名	がん免疫応答を惹起する細胞製剤
研究代表者と所属	植村靖史 免疫療法開発分野
共同研究者と所属	千住 覚（熊本大学）、福田 恭子（張 エイ・国立がん研究センター）

	Novelty	Speed	Capacity	Versatility	Cost	Human sample
Evaluation methods & systems						
Novel original cell lines	○	○	◎	○	○	×
New target identification						
Platform technologies						
Compounds, Antibody, etc						

Strongest point=◎ Strong point=○ Weak point=×

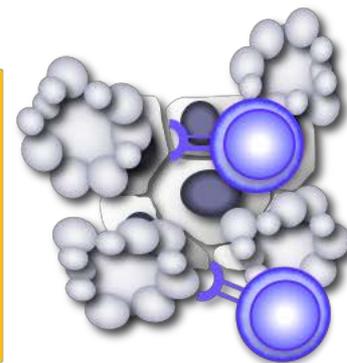
対象疾患	乳がん メラノーマ 大腸がんなど
アセットの概要	<p>がん局所に投与すると、がん抗原特異的免疫応答を惹起することにより投与局所のみならず遠隔部位のがんの制御を可能にする細胞製剤。</p> <p>PD-1 パスウェイを阻害する薬剤を併用することでさらに優れた抗腫瘍効果を発揮する。</p> <p>人工多能性幹細胞から作製したものであり、効果と安全性を向上させることが可能であるとともに、規格化された細胞製剤の提供を可能にする。</p>
関連する研究費 (申請中を含む)	日本学術振興会科学研究費
論文、特許、共同研究、grant	Cancer Immunol Res. 2015 投稿中

遺伝子改変免疫細胞を用いた がん免疫療法の開発

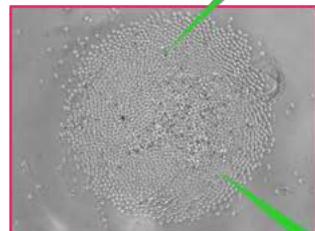


新規エフェクターT細胞
(がん特異性の賦与)

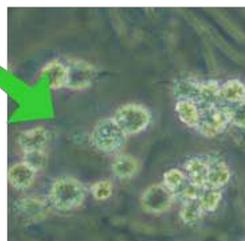
- T細胞受容体 (TCR)
- キメラ抗原受容体 (CAR)



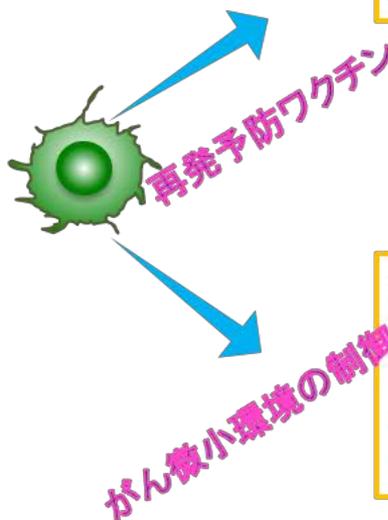
遺伝子変異によって生成された
がん抗原を標的



iPS細胞



樹状細胞
マクロファージ
ミエロイド細胞



再発予防細胞ワクチン

宿主免疫系を制御する
新規細胞製剤

- がん微小環境の制御
- 造血系制御

